



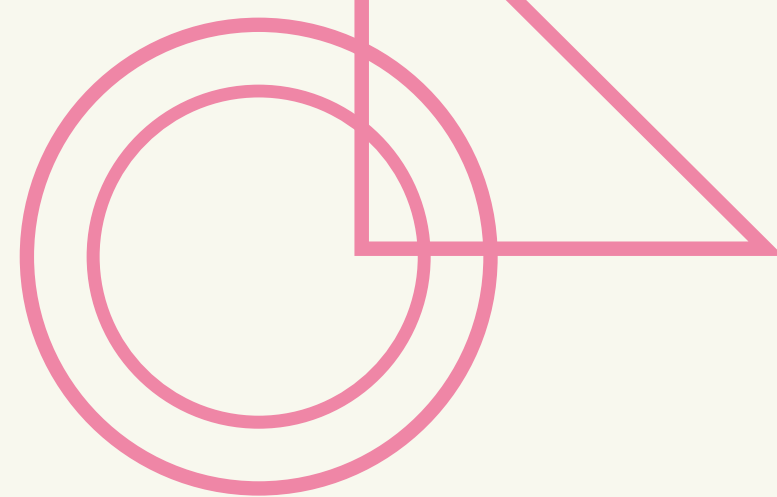
---

# 税務実務

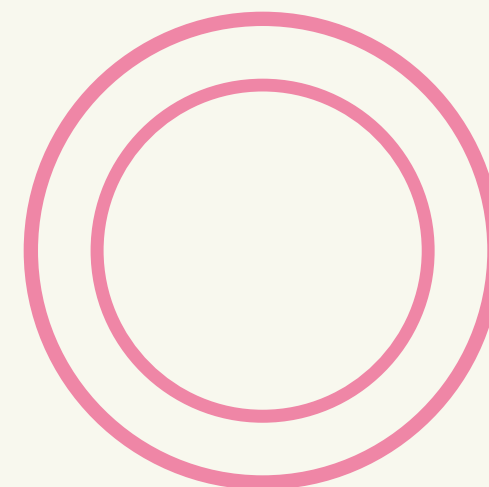
入門 第2回

---





# 税金の基礎知識①



# 当講座の全体像

## 税金の前提知識



# 本日のアジェンダ

1. 税金の必要性や考え方
2. 税金の種類

# 本日のゴール

知ってるつもりでわかってない

今更聞けない・・・

税金の仕組みについてざっくり知ろう！



# 1. 税金の必要性や考え方



## ①税金の必要性

ー税金って何で必要なんだっけ？ー

## ②税金に関する法律

ー税金に関するルールって？ー

## ③税金の集め方

ー税金の公平な集め方とは？ー



# 1－①. 税金の必要性





## ①税金の必要性

# そもそも税金ってなんで払わなきゃいけないの…??



自分のお金は自分の  
ために使いたいなあ…





# ①税金の必要性

国や県・市は民間では供給されにくい、様々な公的サービスを提供しています。

このような公的サービスを提供する資金として、税金は必要とされます。



警察



道路



福祉



消防



教育

私たちはそれらのサービスを利用する都度費用を支払うわけではないので、  
まとめて会費のようなものとして税金を納めています。



# つまり、税金がなかったら…



ぜいたくしてる場合  
じゃない！



## 私たちの生活は成り立ちません。

# 「税金は社会を支える会費のようなもの」

この会費は、私たちが生活する上で必要なサービスを受けるためのものであり、さらには「納税の義務」としても憲法にも定められているため、  
必ず払わなくてはならないものです。

日本国憲法30条

「国民は、法律の定めるところにより、納税の義務を負ふ。」

**一方で、税金は私たち一人一人の個人のお金から支払うものですが、その金額は市場価格で決まるものではありません。**

不公平に取られたり、  
一方的に取られちゃ  
たまらない！！



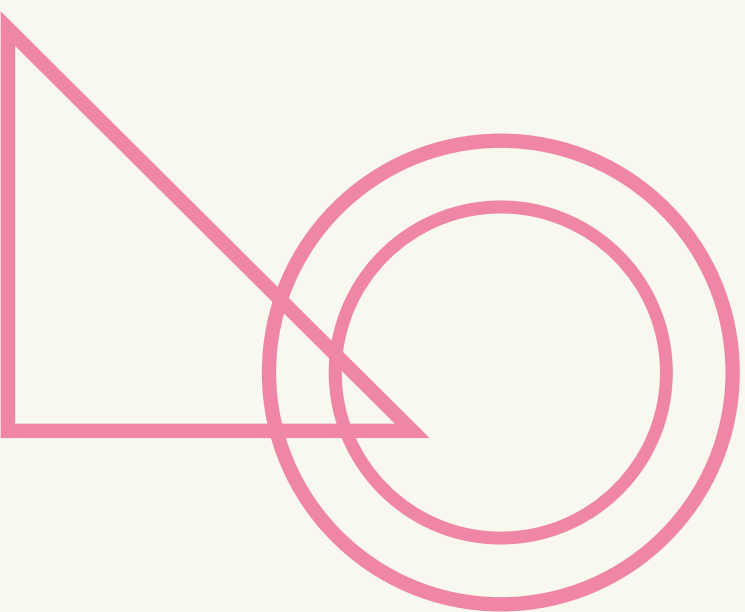


そんなことが起こらないように税金は全て「法律」で定められている！  
(＝租税法律主義)



「誰が納税義務者なのか」  
「何に課税するのか」  
「どのくらい課税するのか」という税金が発生する条件に加え、

税金の計算方法や納税手続き・修正の仕方に至るまで、起こりうる様々な状態を想定して法律の中で明確にしておかなければいけない！





# 1－②. 税金に関する法律



# 税に関する法律

「税法」という言葉は、税金に関する法律の総称

## 法律

基本的な共通事項

国税通則法

国税徴収法

国税犯罪取締法

個々の税金

所得税法

法人税法

… etc.

政策的な税金

租税特別措置法

命令（政令・省令）

通達

最重要事項は法律、次に重要な事項は政令、それ以外は省令として定められている。

細かい実務上の取り扱いについては、国税庁が通達をつくり、全国の税務署に対して解釈の統一をはかっている。





## 1－③. 税金の集め方



# 税金三原則

## 税制を構築するうえでの基本原則

### 公平の原則

経済力が同等の人に等しい負担を求める「水平的公平」と、経済力のある人により大きな負担を求める「垂直的公平」がある

### 中立の原則

税制が個人や企業の経済活動における選択を歪めないようにする

### 簡素の原則

税制の仕組みをできるだけ簡素にし、理解しやすいものにする

公平、中立、簡素。  
「全員が損しないように、わかりやすく」

納税する私たちの目線に立って、  
税金の仕組みが作られています。

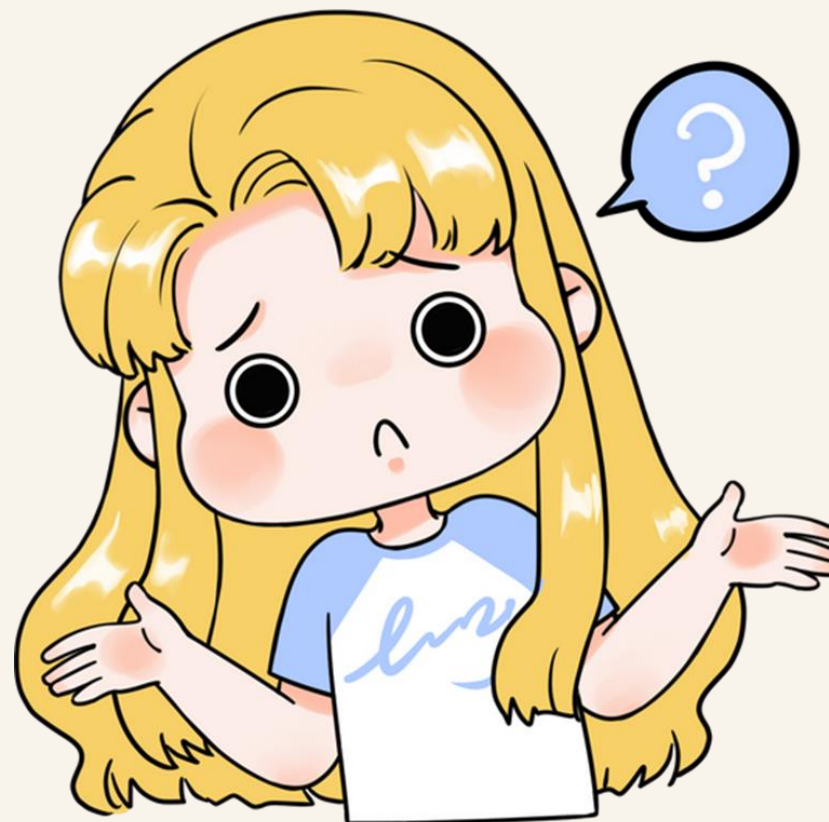
でも、

# 公平に税金を集めるためというけど、そもそも公平って？

## 例えば同額のお金の価値は、人によって違うのでは？

Aさん

職業：グローバル企業創業社長  
年収：1,000万円  
(総資産100億円)



Bさん

職業：大学生（アルバイト）  
年収：100万円  
(時給1,500円)





多様な人々が生活する社会。  
全員からできる限り公平に集めることを目的に、  
色んな税金が設けられています。

# 公平性の実現のために、大きく2つのアプローチがあります。

## 垂直的公平

経済力のある人にはより高く、  
少ない人には低く設定する考え方

### 例：所得税

年収	1,000万円	100万円
税率	40%	10%
税額	400万円	10万円

Aさん  
職業：グローバル企業創業社長  
年収：1,000万円  
(総資産100億円)



Bさん  
職業：大学生（アルバイト）  
年収：100万円  
(時給1,500円)



→経済力に応じて、負担額が変わる

## 水平的公平

同じ経済力の人には、  
同じ負担になるように設定する考え方

### 例：消費税

消費額	10万円	10万円
税率	10%	10%
税額	1万円	1万円

Aさん  
職業：グローバル企業創業社長  
年収：1,000万円  
(総資産100億円)



Bさん  
職業：大学生（アルバイト）  
年収：100万円  
(時給1,500円)



→同じ経済力に対して均等に負担

(注：この場合、同じモノを買えるという意味で同じ経済力があると捉えている)

※説明のため、計算は簡素化してるのでイメージとして捉えてください。

# さまざまな税金の集め方（徴収方法）

みんなから同じ金額

消費税

特定の人だけが全額負担

固定資産税

自動車税

酒税

たばこ税

みんな同じ率

法人税

負担する能力に応じて

所得税

相続税

贈与税

1種類だけの集め方にとすると負担する人が限られてしまい、不公平感がでてきてしまう



約50種類の税金を組み合わせることで、  
立場や意見の違いが調整されることになり、  
全体としてできるだけ公平に負担してもらえる  
仕組み



## 2. 税金の種類

# 税金の分類わけ

## ① どこに税金を払うのか？

- 国税
- 地方税

## ② 誰が税金を払うのか？

- 直接税
- 間接税

## ③ 何に対して税金がかかるか？

- 所得課税
- 消費課税
- 資産課税

## ④ 税金を何に使うか？

- 普通税
- 目的税

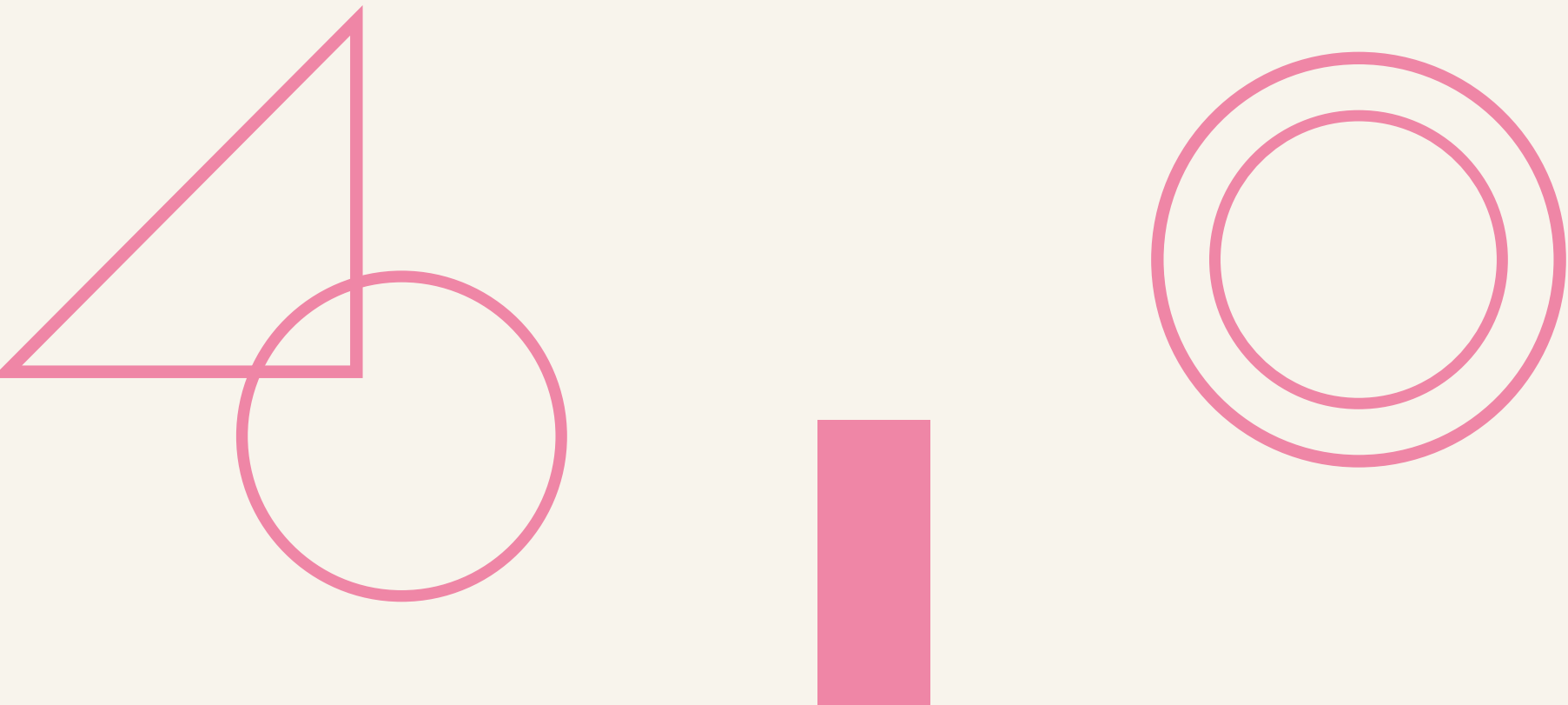
# ①どこに税金をおさめるかで国税と地方税にわかれます

## 国税

国がかける税金で、国におさめる  
国の外交や、医療、年金など  
国全体に関わることに使われている。

## 地方税

地方自治体がかかる税金で、地方自治体におさめる  
教育や消防、救急、ごみ収集など住民生活に欠かせない身近なものに使われている。



## ② 誰が税金をおさめるかで直接税と間接税に分かれます

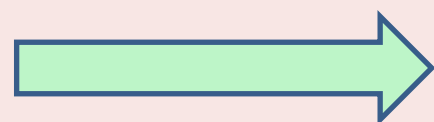
### 直接税

税金をおさめる義務がある人と  
実際に税金をおさめる人が同じ税

Ex) 所得税



確定申告



納税



「納める義務がある人」＝「納める人」

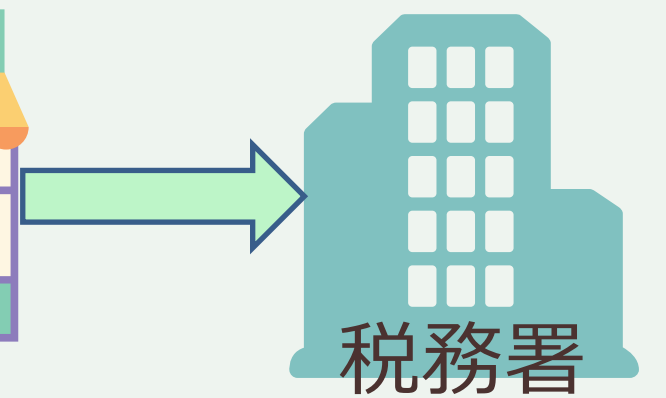
### 間接税

間接税は、税金をおさめる義務がある人と  
実際に税金をおさめる人がちがう税

Ex) 消費税



消費税を  
納税



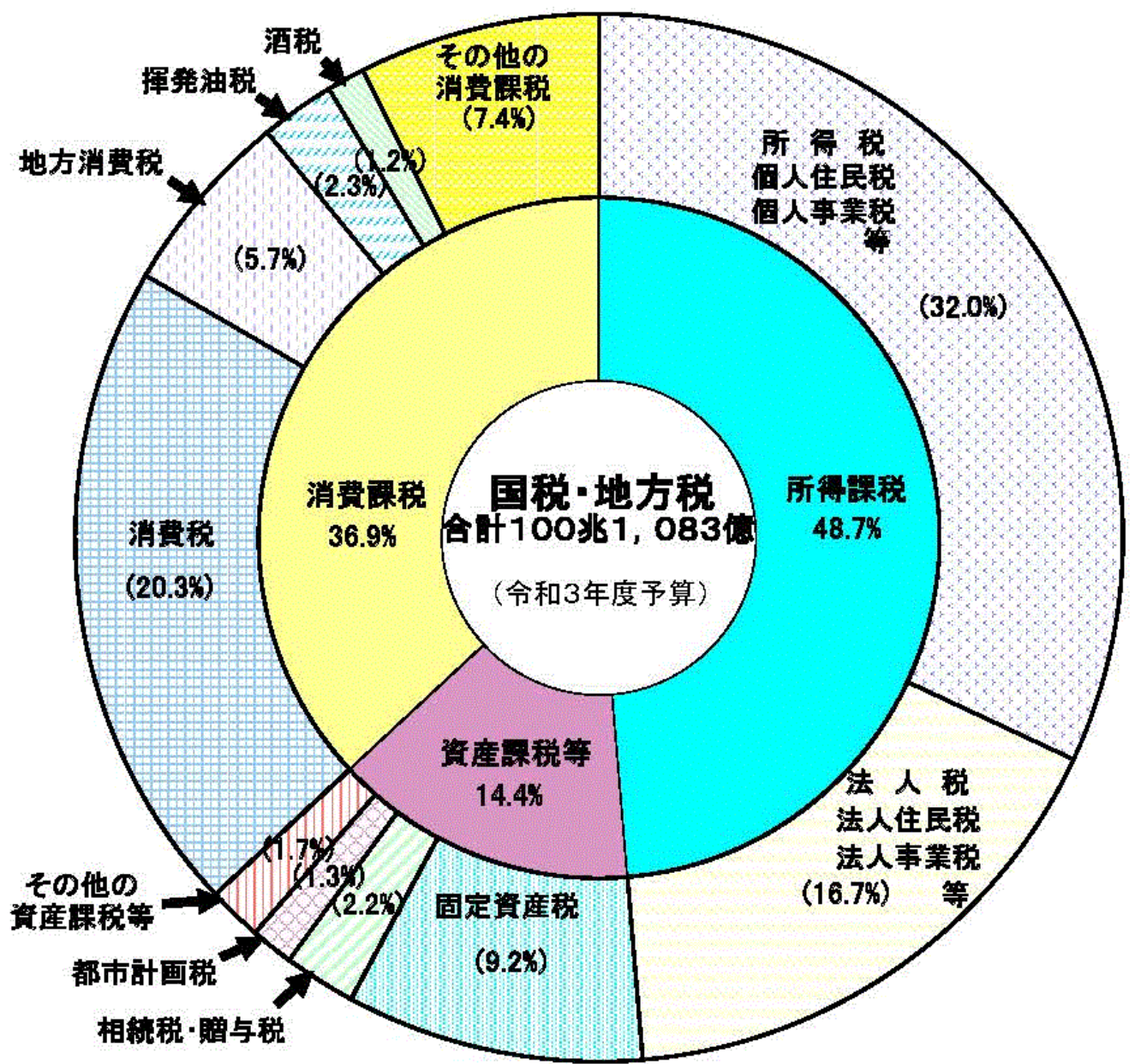
本人の代わり  
に納税

「納める義務がある人」≠「納める人」



③何に対して税金がかかるかで所得課税、消費課税、資産課税にわかれます

税収に占める割合



【財務省ホームページより抜粋】

所得課税

もうけにかかる税金

個人の収入である所得税と法人の利益である法人税に  
わかる。全体の50%近く占めている。

資産課税

資産にかかる税金

資産課税のうち割合的に最も大きいのが、土地や建物といった  
固定資産にかかる固定資産税。続いて相続税・贈与税。

消費課税

消費にかかる税金

商品・製品の販売やサービスの提供など何かを消費したことに対する  
税金。対価を得て行う取引のほとんどが課税の対象になる。

## ④ 税金を何に使うかで普通税、目的税にわかれます

### 普通税

使いみちが特定されていない税金

どのような費用にも充てることができる

一般的

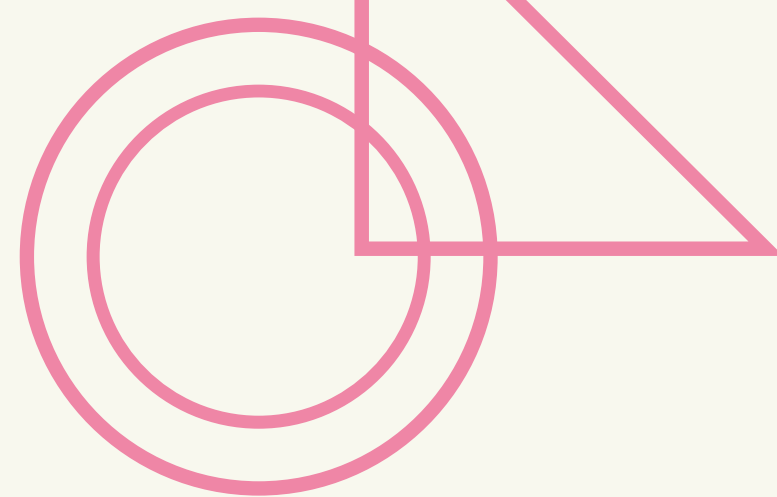
### 目的税

使いみちが特定されている税金

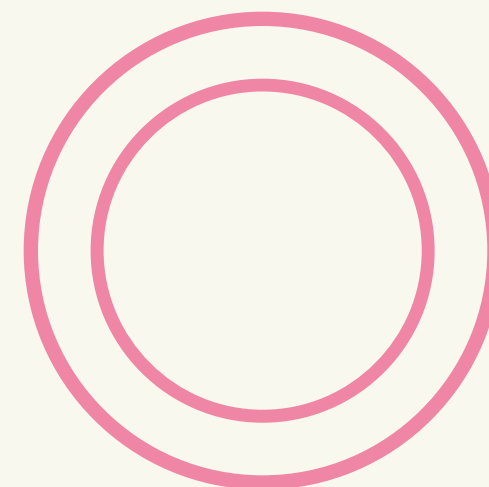
例えば温泉などに入る際に徴収される入湯税は、  
環境衛生施設の設備費用、観光にかかわる費用  
等に充てられることになっている。  
(復興特別所得税も目的税といえる)

例外的

○納税者の納得が得やすい  
×収収の過多・不足という非効率  
×受益と負担の乖離



# 次回予告



# 全般知識

講義回数	タイトル	内容
1	はじめに (コース紹介)	◆ 自己紹介 ◆ 当講座が目指す姿と具体的な進め方
2	税金の基礎知識①	◆ 税金の必要性や考え方 ◆ 税金の種類
3	税金の基礎知識②	◆ 税金の納付形式 ◆ 税金のペナルティや税務調査

次回はこれらの内容となります





SEE YOU NEXT TIME !